

# 埼玉アートシアター通信 19

SAITAMA ARTS THEATER PRESS

2009.1-2月号

【NINAGAWA 千の目】

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

俳優

蜷川幸雄 × 市村正親

MUSASHI

演出：蜷川幸雄

作：井上ひさし

(吉川英治「宮本武蔵」より)

音楽：宮川彬良

藤原竜也 小栗旬

鈴木杏

辻 萬長

吉田鋼太郎

白石 加代子

## INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.19 Jan. - Feb.

ESSAY 03 ナチョ・ドゥアト スペイン国立ダンスカンパニー 『ロミオとジュリエット』

## 有吉京子

TOPIC 04 『彩の国だから、挑んでいけるもの』

## 蜷川幸雄 インタビュー

05 フェスティバル／トーキョー 記者会見レポート

PLAY 06 ムサン

TALK 08 公開対談 NINAGAWA 千の目 第16回 蜷川幸雄×

## 俳優 市村正親

DANCE 10 Dance Performance  
2009-2010MUSIC 16 堤 剛 & 小山実稚恵  
デュオ・リサイタル

MUSIC 18 福井 敬 テノール・リサイタル

20 EVENT CALENDER &  
TICKET INFORMATIONイベント・カレンダー 2009.1.15-2009.3.31  
前売りチケット発売情報(～2009.3.15)  
発売中公演情報

## 23 THEATER BRIDGE

公演レビュー、募集など劇場からのご案内

## 24 Art Window

ムサン

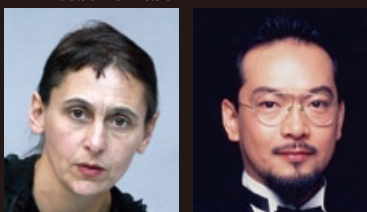
表紙 『ムサン』

Art Window Illustration:トビイ ルツ

編集:横山雅美 ©(財)埼玉県芸術文化振興財団

Published on 15.JANUARY 2009 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

No.19



©KatsuoSakayori



©平凡社

ナチョ・ドゥアト スペイン国立ダンスカンパニー

## 『ロミオとジュリエット』

11月22日公演より

## 有吉京子



©池上直哉

【演目】『ロミオとジュリエット』(1998年初演) 【振付】ナチョ・ドゥアト 【音楽】セルゲイ・プロコフィエフ

【出演】スペイン国立ダンスカンパニー

11月22日(土)～24日(月・祝) 全3公演

ありよし きょうこ◎熊本市出身。1971年に「白鳥の歌をきいて!」、「仔ネコと少女」を同時発表してデビュー。76年開始の「SWAN—白鳥—」は代表作にしてバレエ漫画の最高峰となる。昨年「SWAN—白鳥— 愛蔵版」(平凡社)に番外編を描き下ろし話題に。現在はバレエ季刊誌「SWAN MAGAZINE」(平凡社)でパリ・オペラ座を舞台にした「SWAN」の次世代ストーリー「まいあ」を連載中。

今は亡きモーリス・ベジャールに衝撃を受け、創作上の表現が大きく開けたことがあった。以来、そうした衝撃を探し求めてきた私の目前に、遂に現れた振付家。それがドゥアトだ。バレエ漫画を描き続ける私に、表現の方法を教えてくれる大きな衝撃。彼の作品にはそれがある。

舞台がまるで一つの大きな生き物のように動く。エネルギーが五感すべてで感じられる。ダンサーの体の細胞のひとつひとつに至るまでが動いている。身体表現とはかくあるべき、というものを見た。あらゆる振りに意味付けがあり驚くべき説得力を発揮する舞台に、知らず知らずのうちに惹き込まれている。

「ジュリエットを演じるのではなく、ジュリエットであるか、そうでな

いか」とは、名プリマ、ガリーナ・ウラノワの言葉だ。ドゥアトの作品では、ジュリエットでありロミオがそこに生きて息づいている。ジュリエットの腕一本がドアの間から差し出され、その腕を引き寄せられた勢いで、一瞬の後にはロミオの腕の中。何かが起こる予感。「生きている」舞台がそこにあった。

ドゥアトは古典バレエの様式美を解放し、ダンサーの、観客の、心と体を解放する。現在執筆中の作品では、若い主人公たちが踊りによって自分の存在そのものを表現するという大きなテーマに挑んでいる。そんな時期に、心の動きのすべてを身体言語で表現しきった、ドゥアトの舞台に出逢った必然。漫画の展開にも影響を与えそうだった。



[illegible]



## 期待ふくらむ音楽劇『ムサシ』



剣豪・宮本武蔵を主人公に、音楽劇を作る。

そんなわくわくする企画が、3月に開幕する舞台『ムサシ』で実現する。

作者は井上ひさし、演出はもちろん芸術監督・蜷川幸雄。

演劇界の巨人二人が初めて、新作に取り組むことになった。

出演は、武蔵に藤原竜也、小次郎に小栗旬。そして、井上が創造するヒロインに鈴木杏。

この若い主役トリオを、ベテランの辻萬長、吉田鋼太郎、白石加代子がかっちり支える。

音楽を宮川彬良が担当する。

MUSASHI

### 自由な発想で新しい物語を

この舞台は、1930年代に朝日新聞に連載されて絶大な人気を博し、今日でも多くの読者を持つ吉川英治の小説『宮本武蔵』を下敷きにしている。小説は、青年・武蔵が、数々の試練と向き合いながら、剣の腕を磨き、人間として成長してゆく姿を描く。好敵手である華やかな美剣士・佐々木小次郎との対決がクライマックスになる。

この吉川「武蔵」の設定を踏まえながら、井上は自由な発想で、新しい物語を作る。武蔵と小次郎は、修業の旅の中で出会い、闘い、そして……。井上は、剣の道を究めた者が最後に到達する境地、武力ですべてを制することはできないという真理を踏まえ、劇の中に現代を映し出す。

深く大きなテーマを、「うんとおもしろい芝居にしたい」と井上は語る。「武蔵と小次郎を演じるのは輝いている若い二人。観客の大きな期待を裏切らないことが作者の務めです」。

MUSASHI

### 言葉の洪水に立ち向かう

蜷川が、一歳違いである井上の作品を初めて演出したのは、2005年、『天保十二年のシェイクスピア』だった。江戸時代の侠客の世界にシェイクスピアの戯曲37本をすべて織り込んだこの作品が発表された1974年当時から、蜷川は、野性的なエネルギーと猥雑さに満ちた戯曲を書く井上に共感を抱いていたという。「新劇の教養主義的なシェイクスピア上演に反発していた自分と共通の地盤を感じた」と振り返る。

その後、『荻原検校』『道元の冒険』『表裏源内蛙合戦』と、蜷川は井上の初期作品を立て続けに演出し、いよいよ新作に臨む。

蜷川は井上の戯曲を「暴れ馬」と表現する。言葉の洪水、世界を思わぬ場所から描き出す奇想、凝りに凝った構成、明晰な論理と深い主題をおお喜劇性……。『過剰に次ぐ過剰。こんなに体力が必要な作品はそうはない』。井上戯曲を演出している時、蜷川はよくそう話す。

### MUSASHI Cast Profile



藤原竜也 (ふじわら たつや)

1997年『身毒丸』で初舞台を踏む。以後、『近代能楽集・弱法師』『ハムレット』など多くの蜷川演出舞台に出演。また、野田秀樹演出『オイル』『ロープ』、グレゴリー・ドーラン演出『ヴェニス商人』などの舞台や、映像でも活躍しており、映画『デスノート』は大ヒットを記録した。09年に主演映画『カイジ』が公開。第38回紀伊國屋演劇賞 個人賞(2004年)、第3回朝日舞台芸術賞 寺山修司賞(2004年)、第11回読売演劇賞 優秀男優賞・杉村春子賞(2004年)など、数々の賞を受賞している。



鈴木杏 (すずき あん)

1996年に『金田一少年の事件簿』でドラマデビュー。映画界でも目覚ましい活躍を見せ、『Returner リターナー』では第26回日本アカデミー賞新人俳優賞と話題賞をW受賞。若手トップ女優の一人として幅広く才能を発揮し続けている。主な出演作品に、映画では『花とアリス』(岩井俊二監督)、『監督ばんざい!』(北野武監督)、『椿三十郎』(森田芳光監督)、舞台では『奇跡の人』、『ハムレット』、『鶴城の七人』、『白夜の女騎士』など。



吉田鋼太郎 (よしだ こうたろう)

シェイクスピア・シアター、東京芸術を経て、劇団 AUN を演出家栗田芳宏と結成。劇団公演の他に『ハムレット』、『喪服の似合うエレクトラ』、『悪魔の唄』、『MIDSUMMER CAROL』など様々な舞台に出演している。蜷川演出舞台には多数出演しており、『タイタス・アンドロニカス』『オセロー』ではタイトルロールを演じたほか、近作では『お気に召すまま』『リア王』『から騒ぎ』などに出演。ほかにも『MIDSUMMER CAROL ガマ王子 VS ザリガニ魔人』に主演、『SISTERS』に出演。09年には映画『守護天使』が公開を予定している。第6回読売演劇大賞男優賞、第36回紀伊國屋演劇賞優秀個人賞を受賞。



小栗旬 (おぐり しゅん)

TV、映画、舞台などで幅広く活躍。TVドラマ『花より男子』花沢類役でその人気を不動のものにする。『キサラギ』(佐藤祐市監督)、『クロース ZERO』(三池崇史監督)に主演するなど、映画の出演作は多数。また、蜷川演出の舞台では『ハムレット』、『お気に召すまま』、『間違いの喜劇』、『タイタス・アンドロニカス』、『カリキュラ』に出演している。その幅広い表現力で、若手俳優の中でも実力派として注目を集めている。



辻萬長 (つじ かずなが)

舞台を中心に活躍する実力派俳優として知られる一方、映画、テレビなどにも多数出演。受賞歴も数多く、『ボンソワール・オフエンバック』で芸術祭優秀賞(1980年)、一人芝居『化粧二題』で読売演劇大賞優秀男優賞(2000年)、『雨』、『ロンサム・ウエスト』で『紀伊國屋演劇賞個人賞』(2001年)などを受賞している。近年の出演作品に『紙屋町さくらホテル』、『円生と志ん生』、『人間合格』、『奇跡の人』『父と暮せば』、『闇に咲く花』など。



白石加代子 (しらいし かよこ)

早稲田小劇場(SCOT)を経て現在に至る。舞台を中心に映像でも活躍する。蜷川演出作品では『夏の夜の夢』『身毒丸』『ベリクリーズ』『グリークス』『天保十二年のシェイクスピア』『コリオレイナス』に出演。また、連続企画『百物語』『源氏物語』を行っており、『百物語』は海外でも評価が高い。観世寿夫記念法政大学能楽賞、第一回及び第三回読売演劇大賞優秀女優賞、芸術選奨文部科学大臣賞など数々の賞を受賞。2005年紫綬褒章受章。

|                                                                                      |  |                                                                                                 |  |                                                                                         |  |                                                           |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------|--|-----------------------------------------------------------|--|
|  |  | <p>●●●●● PLAY ●●●●●</p> <p>朝日新聞創刊130周年記念<br/>テレビ朝日創業50周年記念<br/>彩の国さいたま芸術劇場開館15周年記念</p>          |  | <p>『ムサシ』</p>                                                                            |  | <p>【作】井上ひさし(吉川英治「宮本武蔵」より) 【演出】蜷川幸雄 【音楽】宮川彬良</p>           |  |
| <p>【日時】3月4日(水)～4月19日(日) 全54公演</p>                                                    |  | <p>【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール</p>                                                                     |  | <p>【出演】藤原竜也 小栗 旬 鈴木 杏 吉田鋼太郎 辻 萬長 白石加代子 ほか</p>                                           |  | <p>【チケット(税込)】一般・メンバーズ:S 席10,500円/A 席8,500円</p>            |  |
| <p>【発売日】一般:1月31日(土) ※メンバーズプレオーダーは終了いたしました。</p>                                       |  | <p>※メンバーズ WEB 先行販売あり。詳細は財団ホームページ <a href="http://www.saf.or.jp">http://www.saf.or.jp</a> にて</p> |  | <p>3月 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p> |  | <p>4月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19</p> |  |
| <p>曜日 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火</p>                    |  | <p>曜日 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火</p>                               |  | <p>12:30</p>                                                                            |  | <p>12:30</p>                                              |  |
| <p>13:30</p>                                                                         |  | <p>13:30</p>                                                                                    |  | <p>13:30</p>                                                                            |  | <p>13:30</p>                                              |  |
| <p>17:30</p>                                                                         |  | <p>17:30</p>                                                                                    |  | <p>17:30</p>                                                                            |  | <p>17:30</p>                                              |  |
| <p>18:30</p>                                                                         |  | <p>18:30</p>                                                                                    |  | <p>18:30</p>                                                                            |  | <p>18:30</p>                                              |  |

しかし、そう言いながら、蜷川はいつも楽しそうだ。

ベテラン芸術家の魅力とされる枯淡の美を、蜷川は「省エネの老人芸」と切り捨てる。そして、七十歳を超えた自分に、より過激な、より奔放な表現を求めている。だから、力がみなぎる井上戯曲に「鼓舞される」と言う。井上が原稿用紙にきざみつけた発熱するような言葉が、演出家の心をかき立てている。

MUSASHI

### 藤原ムサシ・小栗コジロウ

井上と蜷川が共感を抱き合う同世代の芸術家なら、藤原竜也と小栗旬もお互いを認め合う同じ年だ。

映画やテレビドラマでも人気沸騰の二人だが、舞台俳優としてともに、蜷川に鍛えられてきた。2003年にはシェイクスピア悲劇『ハムレット』で共演している。少し年下の鈴木杏はその時、オフィーリアを演

じた。この三人が『ムサシ』で再び集まった。

『ハムレット』ではハムレットとフォーティンブラスで、藤原と小栗が舞台の上で対峙することはなかった。だが、今回は、運命の糸に結ばれた二人の剣士として、正面から向き合うことになる。

『天保十二年のシェイクスピア』で井上戯曲を経験した藤原は、「今度は新しく書かれた言葉をしゃべることができる。きっと貴重な経験になる」と期待する。

小栗は「格好良く見せることには喜びを感じない。一瞬一瞬のリアルな感情を作るために、命削って取り組む。竜也と心中するくらいの熱さで」と意気込んでいる。

そんな二人を鈴木は「強い光がほとばしるよう」と感じ、「私もしっかりしないと」と表情を引き締める。鈴木のために井上は、意志の強い、新しいヒロインを創作している。

言葉の力で世界を築く井上。破天荒なエネルギーで観客の心をさらってゆく蜷川。若く、美しく、しなやかな主役たち。厚みのある共演陣。練達のスタッフ。何拍子も揃った新作『ムサシ』の開幕が待ち遠しい。



公開対談シリーズ第16回  
NINAGAWA 千の目

# 市村正親 蜷川幸雄

俳優

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

晩秋の劇場にまるで金色の日差しが差し込んだような、  
上質な輝きと微笑みで会場を沸かせてくれた市村正親さん。  
広い経験と深い人間性に培われた  
プロフェッショナルな俳優としての姿勢は、  
市村さんの舞台への真摯な想いを私たちに感じさせた。

## 50歳半ばの僕に『ハムレット』をくれた幸福

**蜷川(以降 N)** 俳優の市村正親さんです。お久しぶりですね。

**市村(以降 I)** 蜷川さんから、この舞台袖で早々にダメ出しをされてしまいました(笑)。「ちょっと腹が出てきたのではないか。お前でも腹が出るんだ」と。もう来年は還暦ですから。

**N** そんなことないです、という視線が。今日は、市村さんファンばかりじゃないか。

**I** 蜷川さんのファンの人、はあーい。(拍手)

**N** どうですか？ お父さんになった気分は。

**I** 本当に幸せです。人生が変わりました。いまミュージカル『ラ・カージュ・オ・フォール』の稽古をしているのですが、これは母親の

役です。自分が育て上げた子という台詞があるのですが、その実感が湧くんです。本当に蜷川さんのおかげですよ。いまのような生活になったのも。

**N** あれば運命だね。「ハムレットをやる」と言ってしまったのがいけなかったんだね。よかったね。

**I** よかったですね。『リチャード三世』をやっている最中でした。「お前であ、急にハムレットをやりたくなっちゃったんだよな」と言って下さった。普通は「ハムレットをやりたいのですけれど」と僕が蜷川さんをお願いして、「お前はまだだ」と言われるものですよ。まして54、55の頃で「お前でハムレットをやりたくなった」と言われた時には、本当に幸せだなあと思いました。一気に、ハムレットを演れましたね。

## 器用で努力家で、ちょっと芸人風の匂いもあり、それでいて新劇的な、劇団四季風の綺麗な活舌で演技がきちっとできる。それを意地悪して封じてやろうと。(蜷川幸雄)

### 市村正親という俳優の強さに意地悪をしたくなる

**N** 僕の現場で、市村さんは稽古場を明るくする“機嫌のいい俳優”さんです。市村さんが稽古場に入ってくると、日が差したように明るくなる。それは大事な資質のような気がします、どこから来ているんですか？

**I** 僕が思うには、親の影響と、3年間西村晃さんの付き人をやったということが、結構僕を変えているかもしれないですね。付き人の3年間は、21から24まででしたが、一番勉強になったことが多いんです。

**N** 付き人をやることによって随分変わったわけですか。

**I** 劇団四季に入った時も、常にいま演出家が何を求めているのか、僕がどうやればこの戯曲は一番喜んでくれるのだろうか、みたいな考え方をしていましたからね。

**N** その上市村さんは、すごい努力家です。シェイクスピア・シリーズの『ペリクリーズ』という芝居では、ずいぶん早くから本当に琵琶を弾く稽古をしていたそうだね。他のミュージカルをやっている時まで(笑)。

**I** そうです。ミュージカル『モーツァルト!』の本番中の合間にロビーや楽屋で琵琶を弾いていました。隣の楽屋の山口祐一郎から「市村さん、琵琶はちょっとまずいなあ」と言われても、「そんなことはない、この音色が解らないのか」と説き伏せて(笑)。

あのとき蜷川さんは「次の『ペリクリーズ』ではお前の目も使わせない、手も使わせない。盲目の琵琶弾きにする。それで勝負しろ」と言ったんです。本当に弾いているのを大分後まで気づいてくなくて、実は悔しかったんですよ。

**N** 僕は『ペリクリーズ』の時、日本的な音を出して欲しい、と言った。語りでも、琵琶を弾きながら綺麗な劇団四季風の発声ではなくて、ちょっと濁らしてほしいと言って、今までの持ち手ができないように彼を封じてやろうとしました。意地悪してあげようと思うのですが、彼はある種のサービス精神と、どこでこんないろいろな物を身に付けて来たのかと思うような力量で明るく切り抜ける。そんなまれな芸人風の匂いを持っている演劇人だと思っています。そして朗々とした演技も出来るから、そこが面白くて演出家としては時には壊してやりたくなるところがあります。

**I** 実は僕も壊してほしいんです。演出家に切り刻まれ、そして最終的に戯曲と演出家と周りの人の力によって一つの形になっていく。僕は切り刻まれるのが好きなんです、切り刻む演出家がだんだん少なくなってきた。

**N** それは市ちゃんが出来るから、大したことのない演出家より上に行ってしまうんだよ。

**I** 僕の方から言うてしまうことが多いかもしれないね。

**N** その方がいいことが多いでしょう。

**I** だから悔しいのは、僕がやったのに、「いい演出ですね」と言われてしまうことです(笑)。

### 蜷川さんから僕今日ひとつ、引き出しました

**N** さっきから意地悪という言い方をしているけれど、市村さんが歯が立たないような芝居はないかなあと実は思っているんだ。これがまた難しい。井上ひさしさんの芝居を演ったことはある？

**I** 好きですけど、ないです。

**N** 井上さんの作品には歌があるけど、朗々と歌いあげてヨーロッパ的な、劇団四季風な母音に還元されるような音にすると、どうも合わないんです。浪曲みたいに、ちょっと声を濁らせた方がいいところもあるけど、そればかりだと、今度は言葉がうまく伝わらないんです。そのところのバランスが難しくて、面白い。いつか市村さんに苦勞してもらうには、今のところ井上さんの戯曲が一番いいんじゃないかと思うのですが。

**I** そうやって井上さんの作品と出会えるのはうれしいですね。実は、僕は今日、ある種のオーディションに来たんですよ。

**N** 何のですか。

**I** 舞台に立っている時は、いい仕事をしなかったら絶対次の仕事は来ないと思っています。誰が観に来ているか分からない。今日は蜷川さんからひとつ引き出せたのではないかと思います。次は井上ひさしさんで何かやれたらいいですね。

**N** でも井上さんは、なかなか脚本が出来ないからね(笑)。ところで、次の芝居は何ですか？

**I** 再演の『屋根の上のヴァイオリン弾き』もありますけれど、新作で三好十郎の『炎の人』。役は、ヴァン・ゴッホです。

**N** やるんだあ。僕は若い頃、滝沢修さんのを生で観たよ。

**I** 僕はあの人の『オットーと呼ばれる日本人』というのを高校3年生の時に観たんです。あまりよく分からなかったけれど、激しい生き方を2、3時間の間見せてもらった感じがして、それで演劇の世界に入ろうと思ったんです。

**N** 『炎の人』はいいね。それは観たいな。そういう気持ちにさせる俳優が、市村正親さんなのです。今日は本当にどうもありがとうございました。



市村正親 いちむら まさちか  
埼玉県出身。1973年に劇団四季『イエス・キリスト＝スーパースター』でデビュー後、数々の作品に出演。退団後は92年の『ミス・サイゴン』(2004年・08年の再演版にも主演)をはじめ、ミュージカルからストレートプレイ、ソロ・パフォーマンスまで、多彩な舞台活動を展開する、まさに日本を代表する舞台俳優。02年芸術選奨文部科学大臣賞、02年及び04年読売演劇大賞優秀男優賞、07年ゴールデンロー賞演劇賞受賞。07年紫綬褒章受章。

photo: 大原狩行 構成: 横山雅美



Condors  
Jan Fabre  
dancetoday2009  
Rosas  
Ikeda+Platel+Verdonck  
Ballets Russes

生身の身体と独自のテクニックを素材に演劇、音楽、美術、  
文学、テクノロジーを取り込み、縦横無尽に表現を増殖させてきたコンテンポラリー・ダンス。  
15周年の彩の国さいたま芸術劇場が皆さまに提案するダンス・プログラムは、さらに深く、広く、  
今日の世界に多くのことを問いかける。乞うご期待！

# Dance Performance

## 2009 - 2010

彩の国さいたま芸術劇場 ダンス・ラインナップ 2009-2010

### 5/23 ~ 24 コンドルズ 埼玉スペシャル公演 2009

coming soon

#### 15年目の初夏、コンドルズ熱風

開館15周年の今年、ダンス・シーズンの幕開けを飾るのは、パワー全開のロックなダンスと学ラン姿で永遠の青春を踊り上げるコンドルズ。新作を引っさげ、4度目のさいたま登場だ。激しくも無性に心に訴えるダンス、一瞬一瞬が特別な輝きを放つステージを創り上げるのが、この男たち。熱い魂で挑む、15周年スペシャル！

【日時】5月23日(土) 開演 15:00 / 19:00  
24日(日) 開演 16:00  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【構成・映像・振付】近藤良平  
【出演】青田潤一 石淵聡 オクダタシ 勝山康晴 鎌倉道彦  
古賀剛 小林顕作 田中たつろう 橋爪利博 藤田善宏  
山本光二郎 近藤良平(予定)  
【チケット(税込)】  
一般:前売4,500円/当日5,000円  
メンバーズ:前売4,050円/当日4,500円 学生席:2,500円  
【発売日】一般:2月14日(土) メンバーズ:2月7日(土)



© HARU

### 6/26 ~ 28 ヤン・ファール 『寛容のオルギア』

coming soon

#### 鬼オファール、再来

美術家、演出家、振付家、劇作家、詩人として、人間の存在の本質に大胆に切り込む、鬼オヤン・ファール。当劇場で上演し大きな話題を呼んだ『主役の男が女である時』、『わたしは血』、『死の天使』に続き、再び、我々の感覚と心を揺さぶりにやってくる。2008年にはパリのルーヴル美術館で大々的に個展が開催され、世界的にますます注目を集めるファールが、彼の『美の戦士たち』とともに、現代社会にうずまく欲望、欲望への過度な寛容を暴き出す。

【日時】6月26日(金) 開演 19:30 / 27日(土) 開演 16:00  
28日(日) 開演 16:00  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【演目】『寛容のオルギア』(2009年1月初演)  
【演出・振付・舞台美術】ヤン・ファール  
【出演】ダンサー ミュージシャン 俳優10名(予定)  
【チケット(税込)】  
一般:S席7,000円/A席5,000円/学生A席3,000円  
メンバーズ:S席6,300円/A席4,500円  
【発売日】一般:3月7日(土) メンバーズ:2月28日(土)



© Frederik Heyman

### dancetoday2009 トリプル・ビル

日本のダンス界の次世代を担うダンサー・振付家3組によるトリプル・ビル。ダンスとは身体による対話。その原点に立ち返り、身体のコミュニケーションのあり方を模索する。過激に、柔らかに、大胆に、親密に、身体が発する言葉をとおして他者と向かい合い、語り合う7名のアーティストたち。彼らの情熱を、挑戦を、カラダを張った熱いメッセージを、その身で受け止める覚悟を！

【日時】9月11日(金) 12日(土) 13日(日)  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
【演目・振付・出演】  
『trio ~《シアンの告白》より抜粋』unit-Cyan (金森穂 井関佐和子)  
『le droit de rêver 夢みる権利』廣田あつ子×中村恵恵  
『イキ、シ、タイ』C/Ompany (大橋真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎)  
【発売日】5月予定

Alessio Silvestrin 振付「二」より  
© 篠山紀信

### ローザス 『ツァイトウング Zeitung』

結成から四半世紀、世界の観客に、常に清新な驚きをもたらしてきたローザスと振付家アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルによる、最新作『ツァイトウング』。バツハ、ウェーベルン、シェーンベルクの音楽と身体の動き。安易には与しない両者が、観るものの感覚を動揺させる。音楽とダンスの関係性から様々なエモーションを生み出す試みを続けてきたケースマイケルとローザスが到達した傑作。

【日時】11月27日(金) 28日(土) 29日(日)  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【演目】『ツァイトウング Zeitung』(2008年初演)  
【コンセプト】アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル アラン・フランコ  
【振付】アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル  
【出演】ローザス(9名) アラン・フランコ(ピアノ) 【発売日】9月予定



© Herman Sorgeloos

### 池田+プラテル+ヴォルドンク 『ナイン・フィンガー Nine Finger』

アフリカの少年兵の目を通して戦争の過酷さを訴える小説をもとに、現代の世界が直面する課題、人類の未来を痛切に問いかける。ローザスを代表するダンサー池田扶美代、フィジカルな俳優として注目を集めるベンヤミン・ヴォルドンク、Les Ballets C. de la B. を率いる振付家アラン・プラテルが出会い、実現した、過激にして慈愛に満ちた創造物。

【日時】2010年2月6日(土) 7日(日)  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【演目】『ナイン・フィンガー Nine Finger』(2007年初演)  
【構成・演出・振付・テキスト】池田扶美代 ベンヤミン・ヴォルドンク アラン・プラテル  
【出演】池田扶美代 ベンヤミン・ヴォルドンク  
【発売日】9月予定



© Herman Sorgeloos

### バレエ・リュス展 ~結成100周年、ダンスの改革者たち~

1909年、世紀のダンサーニジンスキーを擁し、パリにロシア・バレエ旋風を巻き起こしたディアギレフのバレエ・リュス。今年が結成100周年にあたる。ピカソ、ストラヴィンスキー等が舞台美術や音楽を担ったことでも知られ、歴史に語り継がれる前衛的芸術集団でもあったバレエ・リュスの活動を、写真、パネル、舞台模型、プログラム複製などにより紹介する。

【日時】2009年8~9月予定  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場  
ギャラリー ほか  
※入場無料



© 兵庫県立芸術文化センター-薄井憲二バレエ・コレクション





## 豊かなる身体と対峙する、 コンテンポラリー・ダンスの最前線

最前線のダンスを紹介し続けている彩の国さいたま芸術劇場が、2009年度も注目の作品をラインナップしている。

世界から、そして日本から選ばれたダンスは、ダンスファンのみならず、芸術や文化を愛する人々に話題を振りまきそうだ。

文＝稲田奈緒美〔舞踊評論家〕

最初に登場するのは、当劇場では2006年から毎年公演しているコンドルズ。学生服姿の男たちによる豪快なダンス、ユーモラスな寸劇やコント、ちょっとシュールな指人形やアニメ、楽器演奏などダンスの領域を超えた構成で、つつい笑ったり、ほんわか和んだり、童心に戻ったり。ダンスカンパニーを主宰する近藤良平とダンサーたちは、NHK テレビの「からだであそぼ」や「サラリーマン NEO」などにも出演し、お茶の間でも人気者になっている。肩の凝らない表現で幅広い人気を得ているのだが、楽しいだけと侮めるなかれ。よく見てみると、彼らのしかけた毒や展開の巧みさ、イマジネーションの豊かさに気づくだろう。だれでも、どんな風にでも楽しめるダンスである。

また、近藤は当劇場が子どもも大人も楽しめるダンスとして2006年から始めた『日本昔ばなしのダンス』シリーズで、2006年に「ねずみのすもう」、2008年に「はなさかじいさん」を上演している。一風変わった昔ばなしを楽しんだ家族連れも多いだろう。この企画は大変好評で、

全国各地を再演して回っている。彩の国で生まれたダンスが、2009年も各地で上演され、その土地の人々を楽しませる予定だ。



続いて6月に上演されるのは、ヤン・ファール振付、演出による『寛容のオルギア』。ベルギー出身のヤン・ファールは演出家／振付家としてだけでなく、美術家としても世界的に活躍している多彩なアーティスト。美術、映像、演劇などを取り込んだダンスは、常に世界の注目を集めている。当劇場では、『主役の男が女である時』、『わたしは血』、『死の天使』と話題作を上演しており、今度の作品は、2009年1月にサンチアゴ(チリ)で初演されその後ヨーロッパの都市を巡る新作だ。彼は人間の根源的な問題を、身体を通して見つめ、表現している。生と死、暴力、性とジェンダーなどのテーマを、口当たりのよい衣をかぶせることなく大胆に、しかし芸術的な洗練を経て創作してきた。新作では、現代社会の行き過ぎた自由、欲望のままに加速する消費経済、モラルの崩壊などによる価値観の混乱への問いから作品が生まれる。「普通であること」とは何なのか、鋭く、美しく切り込む作品となりそうだ。

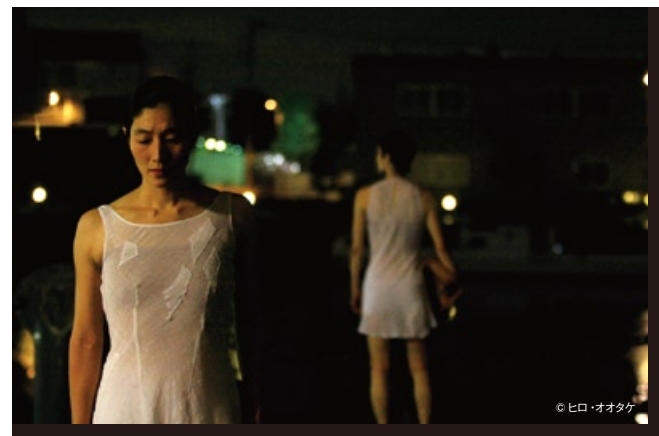


©Stefan Van Flieteren



©Arnold Groeschel

9月には、日本人若手ダンサー、振付家三組が競演する。彼らはヨーロッパの名門バレエ学校を卒業して、ネザーランド・ダンス・シアター(NDT)、ハンプルグ・バレエなど世界有数のカンパニーで経験を積み、現在は帰国して日本各地で活躍している。一組は、Noism 芸術監督の金森穂と、同ダンスミストレスで、公私ともにパートナーの井関佐和子。Noismを指導し、牽引してきた二人が、カンパニーから離れた場所でユニットを結成するという。卓越した振付の才能とダンスの技術を持つ金森と、金森のミューズであり、並外れたダンサーである井関による、親密にして過激なデュオが期待できそうだ。もう一組は、元NDTの中村恩恵と廣田あつ子。女性同士のデュオは時に穏やかに、時に厳しくぶつかりあい、支えあいながら、大地に根付いた柔らかなダンスを紡いでいくことだろう。あと一組は大植真太郎、柳本雅寛、平原慎太郎の男性トリオ。有り余るエネルギーを放出しながら真剣に戯れ、競い合う彼らは、日本のダンス界のちゃぶ台をひっくり返す



©ヒロ・オオタケ

らしい目論んでいるはず。世界の舞台で技術と創造力を磨いてきた彼らが、身体という共通言語で語り合いながら新たなダンスを生み出し、観客に熱いメッセージを発してくれるにちがいない。

11月には、世界的な人気と実力を誇るベルギーのカンパニー、ローザスが2008年の最新作『ツァイトウング』を上演する。ローザスは2001年以来、当劇場で5回の来日公演を行い、その度に清新な驚きを与えている。その理由は、振付家であるアンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケルが、ダンスと音楽の関係をまるで数学者のような緻密さと建築家のような大胆さで探求し続けてきたことにある。今回、ケースマイケルはピアニストのアラン・フランコと共に、ダンスと音楽の“不安定な”関係を追求する。舞台ではフランコによってバッハが清澄に奏でられ、あるいはドラマティックなウェーベルンのオーケストラ曲が鳴り渡り、シェーンベルクの現代的な音が響くのだが、彼女が振り付けたのは、起伏や感情移入のない淡々としたダンス。むしろ、ミニマル音楽の方が相応しいと思ってしまうが、それはダンスと音楽の“調和”を求めてしまう、私たちの思い込み。ピアニストと振付家、音とダンサーは反発するわけでも、無視するわけでもない。異質な他者をそばに感じつつ、安易な調和や情性を巧妙に避け、淡々と弾き、踊る。次第にダンサーの数が増えて何かしらの関係性が生まれ、あるいは、ワンピースにハイヒールといったなまめかしい姿で踊るダンサーが現れて、ダンスと音楽は次第に呼吸を合わせ始める。まるで舞台空間が一つの生き物となって、徐々に末端まで血が通い、各部分が自立しつつ互いの気配を感じて並存する、有機的な時空間が立ち上がっていくようだ。



©Herman Sorgeloos





池田扶美代はケースマイケルと、ベジャール主宰のダンス学校ムードラ時代に知り合い、ローザスの主要メンバーとして20年以上踊ってきた。彼女の表現の強さと、際立った存在感は、一度見たら忘れられない。少女のごとき無垢なグロテスクさと、秩序を破壊しかねない神秘的な狂気を孕んだ彼女は、ローザスでも異彩を放っている。そんな池田が、社会への鋭い感受性を荒々しい肉体表現で演じる俳優、ベンヤミン・ヴォルドンクと出会い、ベルギーのダンスシアター、Les Ballets C. de la B. を率いる振付家アラン・プラテルを迎えたことで、『ナイン・フィンガー』が生まれた。2007年に初演され、ヨーロッパ各地で既に70回以上も再演されている話題作が、2010年2月に上演される。

作品は、ウゾディンマ・イウェアラの小説『ビースツ・オブ・ノー・ネーション』を題材にしている。アフリカの戦争に従軍した少年兵の目を通して、戦争の悲惨さ残酷さを描いたものだ。軍隊で横行する暴力、少年や女性に対する性暴力、略奪、殺人など耳を塞ぎたくなる悲惨な行為を、彼らは直接的に描くのではなく、行為の底にある言葉にならない怒り、悲しみ、恐怖、苦痛、混乱、狂気として表現する。舞台上の池田とヴォルドンクは、どちらがダンサーか俳優かわからないほど動き周り、言葉を発して感情を観客にぶつける。すると抽象化され、細かく精製された感情の粒子が観客に浸透し、徐々に蓄積されていく。三人は、観客が想像力によって補うこと、つまり自分の痛みとして感じることで作品を完成させるのだ。人間を深く挟るダンスである。

ところで、2009年はディアギレフのバレエ・リュスの結成100周年に当たる。ディアギレフはロシアの荒々しく乱舞する肉体と、エロティックでエキゾティックな振付をパリに紹介し、20世紀のバレエに風穴をあけた。そのバレエ・リュスの活動の軌跡を紹介する展示が、8～9月に計画されている。

彼の前衛精神と先見性は、ここにラインナップされたダンス・アーティストたちにも、受け継がれている。人間が生きるために最も基本でありながら、当たり前すぎて普段は気にも留めない身体。豊かで、複雑で、時に叛乱を起こし、未だに科学でも哲学でも解明できない身体。そんな身体と対峙したダンサー、振付家たちが生み出した多様なダンスに、来年度も出会うことができそうだ。

## Dancers Profile

### コンドルズ Condors

男性のみ、舞台衣裳は学ランのダンスカンパニー。NHK 教育『サラリーマン NEO』の「サラリーマン体操」や「からだであそぼ」でお茶の間にも大人気の近藤良平が主宰。メンバーの個性的なキャラクターを存分にいかし、ダンス、映像、演劇、アニメ、生演奏、人形劇をダイナミックに横断する舞台で多くのコアなファンを獲得。日本にとどまらず、これまでに世界20カ国以上で公演し、ニューヨークタイムズ紙も絶賛。近藤は第四回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。TBS『情熱大陸』にも出演。現在、朝日新聞にてコラムを連載中。バンドプロジェクト「THE CONDORS」はメジャーデビューを果たし、TVCM タイアップ、NHK 総合「MUSIC JAPAN」出演等、目下、大躍進中。

### ヤン・ファープル Jan Fabre

1958年、アントワープ生まれ。同時代の最も革新的かつ多才なアーティストの一人。25年間にわたり、パフォーマンス・アーティスト、演出家、振付家、作家、ビジュアル・アーティストとして作品を創作。84年にベネチア・ビエンナーレで発表した『劇的狂気の力』は、現代演劇の先端に位置する前衛作品として注目を集め、日本をはじめ世界各国で上演された。80年代より一貫して人間の肉体を探索の対象とし、当劇場で上演された『わたしは血』（2001年）、『主役の男が女である時』（2004年）、『死の天使』（2004年）等、数々の話題作を発表してきた。2005年、アヴィニョン演劇祭にアッシエイト・アーティストとして招かれ、また2007年にはザルツブルク音楽祭の招聘により『愛容のためのレクイエム』を上演。ジャンルを超えて注目を浴び続ける、稀有なアーティスト。

### 【トリプル・ビル】

#### unit-Cyan ユニット・シアン

金森種（新潟市民芸術文化会館・舞踊部門芸術監督／Noism 芸術監督） 井関佐和子（Noism バレエミストレス）1998年秋、金森（22歳） 井関（18歳） フランス～スイス間にて電話で会話。1999年夏、イスラエルにて初対面。2000年春、オランダにて交際開始。2001年冬、スウェーデンにて初共演。2002年夏、日本へ帰国。2003年冬、東京にて初振付。2004年春、新潟へ移住Noism 設立。2007年7月21日午前7時33分入籍。2009年夏、unit-Cyan 立ち上げ。公私混同、虚実混同、自作自演を模索開始。

### 廣田あつ子×中村恵思

おたがいの杯を満たし合いなさい。しかし、同じひとつの杯からは飲まないように。なぜなら、神殿の柱はそれぞれ離れて立ち、榎の木と杉の木は、おたがいの陰には育たないのですから。カリール・ジブラン預言者

### C/Ompany 大植真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎

「名もなき名の下にゆだねあって」ありそうでなくもない、なんとも気楽なスタンスである。しかしその裏を返せば、空間、時間、身体どれをとっても自分達のおよぶ力の範囲に限られた制約の中であって、初めて自分の不自由さを感じその中から出発しようという試みがある。それは遠い昔誰かが経験した二足歩行への挑戦に似ている。無意識に、他者の言葉の意味もわからず、懲りる事なく、起ち前に進む、親の広げた両腕の範囲内でそして、....

### 【ローザス】

#### アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル Anne Teresa De Keersmaeker

ローザス芸術監督。モーリス・ベジャールのムードラ（ブリュッセル）、ティッシュ・スクール・オブ・アーツ（NY）で学ぶ。帰国後、最初の作品『ファーズ』を創作。1983年、ムードラで学んだ4人の女性ダンサーでローザスを結成し、『ローザス・ダンス・ローザス』でデビューを飾る。音楽と身体との構造的関係を探求しつつ常に刺激的な作品を発表し続け、名実共に世界をリードする。『ドラミング』、『レイン』、『ピッチェス・ブルュー/タコマ・ナロウス』等、彩の国さいたま芸術劇場での公演はいずれも大きな反響を呼んだ。

### 【ナイン・フィンガー】

#### 池田扶美代 Fumiyo Ikeda

ブリュッセルのムードラでアンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケルと出会い、1983年、ともにローザスを結成。以来、1992年まで全ての作品の創作に携わり、出演。退団後もフリーダンサーとして『トッカータ』および、ローザスの映画やビデオに出演。またスティーヴ・バクストンの舞台を始め、映画や演劇にも活動を広げる。1997年、ローザスに復帰、『ドラミング』、『レイン』等、多くの新作創作や再演に貢献している。

### ベンヤミン・ヴォルドンク Benjamin Verdonck

王立フレイミッシュ音楽院の舞台芸術部門を卒業。俳優として多くの演出家と活動後、2000年以降は、公共空間における演劇の持つ力と機能に集中。ブリュッセルやアントワープの中心地で、広場の樹上に小屋を設置したり、地上32 mの高さに鳥の巣を製作したインスタレーションを発表。一匹の豚と3日間にわたり「対談」し、アメリカイラク間の緊張から生まれる混乱と困惑を表現した作品等も創作している。

### アラン・プラテル Alain Platel

1956年、гент生まれ。マイムやバレエを学んだ後、カナダ人振付家バーバラ・ピアスのワークショップを受講。1986年、Les Ballets C. de la B. を結成。『バッハと憂き世』、『ワルフ』等の生演奏を用いたダンス作品や演劇作品で高く評価されている。不完全で傷つきやすい人間を作品のスタート地点に、ユーモアや活力、一見した無秩序を通じて際立った作品を創り続ける。

## 彩の国さいたま芸術劇場 ダンスアーカイヴ vol.1

# videodance2009

## スクリーンに蘇る、珠玉の舞台

3シーズン目をむかえた「videodance」。今年は、ここさいたまで過去に上演し、大きな反響を呼んだ作品の記録映像をそろえてのアーカイヴ上映。世界の最先端のダンスを紹介してきた彩の国さいたま芸術劇場ならではのラインナップです。もう一度観たいあの舞台が、鮮やかに蘇る！

### 【Program】



© 高嶋ちぐさ

### ローザス

## 『ファーズ』

#### Rosas

#### FASE

Four movements to the music of Steve Reich

絶え間なく繰り返されるミニマルな動きが僅かなずれを積み重ねながら徐々に変化を見せ、豊かな逆流現象を巻き起こす。秩序と静けさの中の乱流から鮮烈なダンスが立ち上がる。ケースマイケルとローザスの原点的作品。

振付:アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル 音楽:スティーヴ・ライヒ

出演:アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル ミシェル・アンヌ・ドウ・メイ

(初演 1982年／2002年12月13～15日 彩の国さいたま芸術劇場)



© 瀬戸秀英

### インバル・ピント・カンパニー

## 『ヒュドラ』

#### Inbal Pinto Dance Company

#### Hydra

ピント&ボラックが、今注目の日本人ダンサーと共に挑んだ新作世界初演。宮沢賢治にインスピレーションを得て、ノスタルジックで不思議な異世界へと誘う旅を描く。当劇場とインバル・ピント・カンパニーとの国際共同製作。

振付・演出・衣裳デザイン・舞台美術デザイン:インバル・ピント&アヴシャロム・ボラック

出演:インバル・ピント・カンパニー、大植真太郎、森山開次

(世界初演 2007年11月9～11日 彩の国さいたま芸術劇場)



© Arnold Groeschel

### ヤン・ファープル

## 『わたしは血～中世妖精物語～』

#### Jan Fabre

#### Je suis sang Conte de fées médiéval

2001年のアヴィニョン演劇祭、かつてカトリックの中枢であった法王庁の中庭で初演され、センセーションを巻き起こした革命的作品。善悪の彼方で人間の欲望や本質に迫る、『血』をめぐる狂騒と祝祭の舞台。

演出・振付・舞台美術・テキスト:ヤン・ファープル

出演:エルス・ドゥククリア セドリック・シャロン オリヴィエ・ドゥボア イヴァナ・ヨセク

リンダ・アダミ スン・イム・ハー ほか(ダンサー ミュージシャン 俳優20名)

(初演 2001年／2007年2月16～18日 彩の国さいたま芸術劇場)



© Arnold Groeschel

### アクラム・カーン+

### シディ・ラルビ・シェルカウイ

## 『ゼロ度』

#### Akram Khan + Sidi Larbi Cherkaoui

#### zero degrees

バングラデシュ系イギリス人のカーンとモロッコ系ベルギー人のシェルカウイ。今、世界で起こっている宗教や文化の対立や暴力に対しての、二重のアイデンティティを背負って生きる二人による、身体で書いたメッセージ。

振付・演出・出演:アクラム・カーン シディ・ラルビ・シェルカウイ

作曲:ニッティン・ソーニー 彫刻:アントニー・ゴームリー

(初演 2005年／2007年1月12～14日 彩の国さいたま芸術劇場)



© Arnold Groeschel

演出・振付:サシャ・ヴァルトツ 出演・振付:サシャ・ヴァルトツ&ゲスツ

(初演 2000年／2007年7月28～29日 彩の国さいたま芸術劇場)

### サシャ・ヴァルトツ&ゲスツ

## 『ケルパー（身体）』

#### Sasha Waltz & Guests

#### Körper

芸術、心理学、医学、スポーツ、愛、社会、暴力、宗教。様々なコンテキストにおける身体の位相を列挙する、一時間半の肉体の百科全書。



© 池上直哉

### イリ・キリアン

## 『ブラックバード』

#### Jiří Kylián

#### Blackbird

産道か臍の緒を思わせる長いチューブに覆われて、生まれ、生を与えられ、そして死に向かってゆく生命の大きながれの中にある人間、生きることの本質に迫る。イリ・キリアンによってダンサー中村恵思に振り付けられた、当劇場委嘱作品。

コンセプト・振付・舞台美術:イリ・キリアン 出演:中村恵思 ほか

(世界初演 2001年10月6～7日 彩の国さいたま芸術劇場)



# ブラームスの真骨頂を堪能できるデュオ・リサイタルへ

大家と呼ぶにふさわしい日本を代表するソリスト二人による、

オール・ブラームスのチェロ・ソナタ演奏会の実現は、贅沢の極みと言ってよいだろう。

そうした表現力、経験を持つ演奏家のデュオにしか描けない、難曲といわれるブラームスの室内楽の音色の深み、奥行きともいえる複雑さ。そして、それらが織り成す“音楽の豊かさ”を味わえる重厚な演奏会の機会を心待ちにしたい。



堤 剛 つつみ つよし (チェロ)  
桐朋学園高等学校音楽科卒業後、米国インディアナ大学に留学。1963年、カザルス国際コンクール第1位。第2回鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)、レコードアカデミー賞並びに芸術祭優秀賞、日本芸術院賞など多数受賞。現在、霧島国際音楽祭音楽監督、桐朋学園大学学長、サントリーホール館長を務める。

今回はチェロ・ソナタ2曲と、ブラームス自身が編曲したとされていたヴァイオリン・ソナタを演奏する訳ですが、その各々に特徴があり、一度聴いたら虜にされてしまう魅力があります。まずホ短調のソナタですが、これは冒頭のチェロで奏される深くて渋いテーマがブラームスの出身地北ドイツそのものを表している、と言って良いでしょう。打って変わってヘ長調は、ブラームスが作曲家として最も充実していた時期にスイスのトゥーン湖畔で作曲されたものですが、スケールの大きさはまさにシンフォニーです。そして雨の歌。私はこれをチェロで弾ける事に至福の感を覚えます。(堤 剛・談)

MICHIE  
KOYAMA

TSUYOSHI  
TSUTSUMI

## 秋のソナタ

文=三宅幸夫 [音楽評論家]

このたび堤剛と小山実稚恵によって——《ヴァイオリン・ソナタ第1番》の編曲版をふくむ——ブラームスのチェロ・ソナタ全曲上演が実現することになった。世界的なチェリスト堤剛は、10年ほど前になるがヴォルフガング・サヴァリッシュとチェロ・ソナタ2曲のすばらしい録音を残しているし、ピアニスト小山実稚恵も衝撃的なデビュー以来、四半世紀にわたって着実な演奏活動を繰りひろげているから、いやがうえにも期待は高まるというもの。それというのも、ブラームスの幾重にも屈折した作品(とりわけ室内楽とピアノ小品)は、年輪を重ねた音楽家でなければ歯が立たないところが多々あるからだ。

ブラームス、その音楽に香る哲学に触れる

そもそもブラームスは遅れてやってきた。ベルリオーズ、リスト、ショパン、ワーグナー等々……ロマン派の作曲家たちは1810年辺りに生まれているが、ブラームスはようやく1833年に生を受けた。たとえば若きブラームスがシューマンに出会ったのが、シューマンの「晩年」であったことを想起こそすとい。つまりロマン派音楽の花園には、すでに先人たちが思い思いの花を植え、新たに花を植える場所はおくわすかしか残されていなかった。言い換えるならば、もはや急進派の先端に躍り出る余地はなかったのである。

その代わりにブラームスは、バッハをはじめとする過去の音楽に目

を向け、これを徹底的に検証して創作活動の基盤に据えた。たとえば《チェロ・ソナタ第1番》終楽章のフーガは、その最初の成果とみてよいだろう。筆者がブラームスの芸術を、夏の盛りを過ぎた「秋のソナタ」と呼びたくなるのは、そうした彼の歴史主義的な姿勢にほかならない。

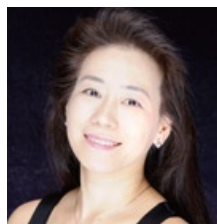
ただ、それだけではなく「民謡」ないし広く「歌」に対するブラームスの思い出れも見逃してはなるまい。自作の歌曲《雨の歌》を下敷きにした《ヴァイオリン・ソナタ第1番》終楽章もさることながら、《チェロ・ソナタ第1番》第2楽章には、あたかも《ドイツ・レクイエム》の「悩みを抱く者たちは、しあわせである。彼らは慰められるからである。」がこだましているかのようだ。あるいは《チェロ・ソナタ第2番》第3

楽章の「歌」にも、どれだけ器楽的な発想が支配的であっても、どこかで、それから解き放たれて歌わずにはいられないブラームスの性癖がよく現われていると思う。

19世紀の音楽界は、そして親しい友人ですらも、こうした過去の、時代を超えた祖型への愛着ゆえに、ブラームスを保守反動主義者と位置づけた。しかし、ようやく生誕百年祭になって、当時の現代作曲家シェーンベルクが、この徹底した体系的思考を旨とする作曲家を「進歩主義者」と正しく評価することになる。《チェロ・ソナタ第2番》における主題・動機の操作などはその一例だろう。ブラームスの過去に向けられた長いまなざしは、どこかで未来へと回路がつながっていたのである。

©Katsuo Sakayori

©K.Miura



小山実稚恵 こやま みちえ (ピアノ)  
1982年チャイコフスキー第3位、85年ショパン第4位と日本人として初めて2大国際コンクールに入賞。2006年からは年2回ずつ12年間・24回リサイタルシリーズに取り組み、大きな注目を集めている。ソニーよりCDを多数リリース。05年度文化庁芸術祭音楽部門の大賞、05年第7回ホテルオークラ音楽賞受賞。

ここ彩の国さいたま芸術劇場でのブラームス・シリーズでピアノ・トリオ(3曲)、ピアノ・クァルテット(3曲)、ピアノ・クインテット、そしてクラリネット・トリオをご一緒させていただいた堤先生と、今回ソナタを3曲も共演できる事は私にとって心からの喜びです。音楽は人間そのものでもあります。ブラームスの世界がチェロの響きで広く深々と歌われる時、ピアノを弾きながらこれ以上ないほどの幸せを感じています。堤先生とのデュオでしか味わう事のできない大きな音楽。この3曲のソナタが聴衆の皆さんの胸にどのように響くのかとても楽しみです。ブラームスを心でずっしりと受け止めてください。(小山実稚恵・談)



●●●● MUSIC ●●●●

堤 剛(チェロ) & 小山実稚恵(ピアノ)  
デュオ・リサイタル  
～オール・ブラームス・プログラム～

【日時】3月8日(日) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】ブラームス:チェロ・ソナタ第1番 ホ短調 作品38  
ブラームス(クレンゲル編曲):チェロ・ソナタ 二長調  
(原曲:ヴァイオリン・ソナタ第1番 ト長調 作品78「雨の歌」)  
ブラームス:チェロ・ソナタ第2番 ヘ長調 作品99

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円  
メンバーズ:S席3,600円/A席2,700円





## KEI FUKUI TENOR RECITAL

すばらしいテノールにしか、見せてもらえない  
“究極の愛の夢”に酔いしれる

日本を代表するテノール歌手として活躍する、福井敬が特別プログラムで登場してくれる。

テーマは、「オペラ作曲家のさらなる魅力」。

数々の名舞台を生んできた、彼の十八番役のオペラ・アリアを中心に、  
その類稀なる輝かしい声が604席のコンサートホールを甘く包むことだろう。

文=石戸谷結子〔音楽ジャーナリスト〕

### 福井敬さんの“誰も寝てはならぬ”が聴きたい！

自分の魅力に惹かれて言い寄ってきた王子たちに、3つの難解な謎々を出し、解けなければ即座に首を撥ねるという、冷酷な美女トゥーランドット姫。その謎をみごとに解き明かし、さらなる挑戦を姫に挑んだ凛々しい放浪の王子カラフ。この二人のドラマチックな愛を描いたのが、ブッチーニのオペラ《トゥーランドット》だ。そのクライマックスで、王子は夜明けの北京の街に立ち、「誰も寝てはならぬ…」と歌い出す。そして「夜よ失せよ！ 星よ沈め！ 朝の光のなかで私は勝つ！」と高らかに愛の勝利を宣言する。氷のような姫の心を溶かしたのは、カラフの愛であり、情熱的な「声」の力だった！

テノールの声をただ1曲で満喫させてくれるアリア“誰も寝てはならぬ”だが、これは誰もが歌える曲ではない。引き締まった力強い声と輝かしい高音が要求される難曲だからだ。日本でこのアリアを歌えるテノールといったら、真っ先に名前が挙がるのが福井敬さんだ。2001年にBunkamura オーチャードホールで聴いた《トゥーランドット》のカラフのすばらしさは、いまでも耳に残っている。中国風の衣装を着け、髷を結った福井さんは、第3幕の冒頭で“誰も寝てはならぬ”を絶唱し、ホールはブラボー！の嵐につつまれた。

### テノールの王道、 リリコ・スピントにしか描けない“愛の姿”

じつはテノールと一口にいってもいろいろな声質がある。高貴な生まれの若き伯爵や童話の王子などを歌う、軽やかで明るい高い声。悩める英雄や人生の苦難を一身に背負った役どころの重厚でドラマチックな声。そして輝かしい高音と若々しい表現力が魅力の、テノールの王道をいく声の質。福井敬さんは、世界中で払底している大変貴重なこのリリコ・スピントという声質を持ったテノールである。役柄としては、ドン・ホセ(カルメン)、ラダメス(アイダ)、ドン・カルロ(ドン・カルロ)、カヴァラドッシ(トスカ)、カラフなど、ヒロイックな役柄だ。

その福井敬さんの声を、三大テノールにあてはめてみれば、ドミンゴとカレーラスを足して2で割ったような歌手ということができそうだろうか。ドミンゴのように引き締まった力強い声と深い表現力に加え、カレーラスのように、聴く人の心に切々と訴える熱い歌い方を併せ持っているのだ。

福井敬さんは数年前、『君を愛す』というタイトルのCDをリリースしている。グリークの歌曲《君を愛す》にはじまり、“誰も寝てはならぬ”や《トスカ》のアリア、またナポリターナなどお得意の曲がぎっしり詰まったアルバムだ。ほとんどが「愛」を歌ったもので、いかにも福井さんらしい選曲だ。



藤沢市民オペラ《トゥーランドット》(ペリオ版, 2006年)

つねづね、テノールを聴く楽しみは、愛を歌ってくれることだと思っている。聴き手は聴いているうちにしだいに、「この曲は、自分のために歌ってくれている」と錯覚する。これぞ“幸せな誤解”というもののだが、その錯覚が最も生まれやすい曲といえば、マスネ《ウェルテル》のアリア、“なぜ我を目覚めさせるのか、春風よ”である。甘く美しい旋律にのせて、詩人のウェルテルは美しい人妻シャルロッテに、切々と愛を訴える。今回のリサイタルで、福井さんはこのアリアを歌ってくれることになっている。聴きながら「わたしのために歌ってくれている！」と思えたなら、あなたはもう立派な福井敬ファンです！

#### Profile

福井 敬 ふくい けい (テノール)  
輝かしい声と情感溢れる演技、幅広い表現力で日本を代表するテノール。新国立劇場(ローエングリン)、びわ湖(ドン・カルロ)、Bunkamura《トゥーランドット》等、話題の公演での大役がいずれも絶賛されている。芸術選奨文部大臣賞新人賞、ジロー・オペラ賞、出光音楽賞、エクソンモービル音楽賞洋楽部門本賞等、数々の栄誉に輝く。09年も《トゥーランドット》(びわ湖&神奈川県民ホール)カラフで出演。二期会会員。

●●●● MUSIC ●●●●

#### 福井 敬 テノール・リサイタル

【日時】4月25日(土) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】福井 敬(テノール) 谷池 重紬子(ピアノ)

【曲目】ヘンデル:オンブラ・マイ・フ ウェルティ:乾杯 マスカニ:セレナータ  
マスネ:歌劇《ウェルテル》より“なぜ我を目覚めさせるのか、春風よ”  
ブッチーニ:歌劇《トゥーランドット》より“誰も寝てはならぬ”ほか

【チケット(税込)】

一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円

メンバーズ:S席3,600円/A席2,700円

【発売日】一般:1月25日(日) メンバーズ:1月24日(土)



## EVENT CALENDER 2009.1.15-2009.3.31

| 1 January  |                    |                                                                                                                                                                                                     |
|------------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15 木       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』<br>開演 18:30 ※詳細は P.22 にて                                                                                                                                                   |
| 16 金       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 18:30                                                                                                                                                                   |
| 17 土       | PLAY<br>MUSIC      | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00<br>埼玉会館ニューイヤー・コンサート<br>ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ<br>開演 14:00 ※詳細は P.22 にて                                                                                        |
| 18 日       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00                                                                                                                                                                   |
| 19 月       | 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場) |                                                                                                                                                                                                     |
| 20 火       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 18:30                                                                                                                                                                   |
| 21 水       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00                                                                                                                                                                   |
| 22 木       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00                                                                                                                                                                   |
| 23 金       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 18:30                                                                                                                                                                   |
| 24 土       | PLAY<br>MUSIC      | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00 / 18:30<br>光の庭プロムナード・コンサート ～星に寄せるうた～<br>開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ<br>出演 = 佐藤礼子(オルガン) 萩原 潤(バリトン)<br>曲目 = ブクステフーデ: 晩の星のいと美しきかな<br>いずみたく: 見上げてごらん夜の星を ほか ※入場無料 |
| 25 日       | PLAY               | 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～立川生志の会<br>開演 16:00 ※詳細は P.22 にて                                                                                                                                                     |
| 26 月       | 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場) |                                                                                                                                                                                                     |
| 27 火       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 18:30                                                                                                                                                                   |
| 28 水       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00                                                                                                                                                                   |
| 29 木       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00                                                                                                                                                                   |
| 30 金       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 18:30                                                                                                                                                                   |
| 31 土       | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00 / 18:30                                                                                                                                                           |
| 2 February |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 1 日        | PLAY               | 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』 開演 13:00                                                                                                                                                                   |
| 2 月        | 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場) |                                                                                                                                                                                                     |
| 3 火        | 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場) |                                                                                                                                                                                                     |
| 4 水        |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 5 木        |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 6 金        |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 7 土        | TALK<br>MUSIC      | 蛭川幸雄公開対談シリーズ NINAGAWA 千の目<br>第17回 大竹しのぶ×蛭川幸雄 開演 13:00<br>※申込み締切:1月17日(土) 必着<br>ピアノ・エトワール・シリーズ<br>Vol.8 ロマン・デジャルム 開演 14:00 ※詳細は P.22 にて                                                              |
| 8 日        |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 9 月        |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 10 火       |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 11 水・祝     |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 12 木       | 臨時休館日(埼玉会館)        |                                                                                                                                                                                                     |
| 13 金       | CINEMA             | 彩の国シネマスタジオ『西の魔女が死んだ』<br>上映時間 13:00 / 15:50 / 19:10 ※詳細は P.22 にて                                                                                                                                     |
| 14 土       | CINEMA             | 彩の国シネマスタジオ『西の魔女が死んだ』<br>上映時間 10:00 / 12:50 / 16:00 / 19:30<br>※12:50上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。<br>手話通訳を予定しています。                                                                                    |
| 15 日       | CINEMA             | 彩の国シネマスタジオ『西の魔女が死んだ』<br>上映時間 10:00 / 13:10 / 16:10                                                                                                                                                  |
| 16 月       |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 17 火       |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 18 水       |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 19 木       |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 20 金       |                    |                                                                                                                                                                                                     |
| 21 土       | MUSIC              | 光の庭プロムナード・コンサート<br>管々々々～パイプオルガンは管楽器と仲間なのだ!～<br>開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料<br>出演 = 浅尾直子(オルガン) 本間千也(トランペット)<br>曲目 = スヴェーリング:ポーランド風舞曲 スタンリー:トランペット・ヴォランタリー                                  |

| 22 日    |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
|---------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 23 月    | 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)              |                                                                                                                                                                                                          |
| 24 火    |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 25 水    |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 26 木    |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 27 金    |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 28 土    | CINEMA                          | 彩の国シネマスタジオ 熊谷会館上映会 オペラ映画『椿姫』<br>上映時間 11:00 / 14:00 ※詳細は P.22 にて                                                                                                                                          |
| 3 March |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 1 日     |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 2 月     |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 3 火     |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 4 水     | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30 ※詳細は P.6～7 にて                                                                                                                                                                             |
| 5 木     | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30                                                                                                                                                                                           |
| 6 金     | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 13:30                                                                                                                                                                                           |
| 7 土     | PLAY<br>DANCE                   | 『ムサシ』 開演 12:30 / 17:30<br>彩の国さいたま芸術劇場 ダンスアーカイヴ vol.1<br>videodance2009 開演 14:00～20:00 ※入場無料 ※詳細は P.15 にて                                                                                                 |
| 8 日     | PLAY<br>MUSIC<br>DANCE          | 『ムサシ』 開演 13:30<br>堤 剛(チェロ)& 小山実稚恵(ピアノ) デュオ・リサイタル<br>～オール・ブラームス・プログラム～ 開演 14:00 ※詳細は P.16～17 にて<br>彩の国さいたま芸術劇場 ダンスアーカイヴ vol.1<br>videodance2009 開演 14:00～20:00 ※入場無料                                      |
| 9 月     | 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)              |                                                                                                                                                                                                          |
| 10 火    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30                                                                                                                                                                                           |
| 11 水    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 13:30 / 18:30                                                                                                                                                                                   |
| 12 木    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30                                                                                                                                                                                           |
| 13 金    | CINEMA<br>PLAY                  | 彩の国シネマスタジオ『マンデラの名もなき看守』<br>上映時間 12:50 / 15:40 / 19:00 ※詳細は P.21 にて<br>『ムサシ』 開演 13:30                                                                                                                     |
| 14 土    | CINEMA<br>PLAY                  | 彩の国シネマスタジオ『マンデラの名もなき看守』<br>上映時間 10:00 / 13:20 / 16:40 / 19:30<br>※13:20上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。<br>『ムサシ』 開演 12:30 / 17:30                                                                             |
| 15 日    | CINEMA<br>PLAY<br>PLAY<br>MUSIC | 彩の国シネマスタジオ『マンデラの名もなき看守』<br>上映時間 10:00 / 13:30 / 16:50<br>『ムサシ』 開演 13:30<br>源氏語り五十四帖 第48回『宿木(やどりぎ) 2』<br>開演 14:00 ※詳細は P.22 にて<br>埼玉会館ファミリー・クラシック<br>バディントン ベア™ といっしょにコンサートに行こう!<br>開演 14:00 ※詳細は P.22 にて |
| 16 月    | 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)              |                                                                                                                                                                                                          |
| 17 火    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30                                                                                                                                                                                           |
| 18 水    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 13:30 / 18:30                                                                                                                                                                                   |
| 19 木    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30                                                                                                                                                                                           |
| 20 金・祝  | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 13:30                                                                                                                                                                                           |
| 21 土    | PLAY<br>MUSIC                   | 『ムサシ』 開演 12:30 / 17:30<br>光の庭プロムナード・コンサート ハッピーバースデー! バッハ!<br>開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料<br>出演 = 浅井美紀(オルガン) 能登谷安紀子(ヴァイオリン)<br>曲目 = バッハ: おおまなる神、われを憐れみたまえ BWV721、G 線上のアリア ほか                    |
| 22 日    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 13:30                                                                                                                                                                                           |
| 23 月    | 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)              |                                                                                                                                                                                                          |
| 24 火    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30                                                                                                                                                                                           |
| 25 水    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 13:30 / 18:30                                                                                                                                                                                   |
| 26 木    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30                                                                                                                                                                                           |
| 27 金    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 13:30                                                                                                                                                                                           |
| 28 土    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 12:30 / 17:30                                                                                                                                                                                   |
| 29 日    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 13:30                                                                                                                                                                                           |
| 30 月    |                                 |                                                                                                                                                                                                          |
| 31 火    | PLAY                            | 『ムサシ』 開演 18:30                                                                                                                                                                                           |

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

## 前売りチケット発売情報(～2009.3.15)

## CINEMA 彩の国シネマスタジオ

## 『マンデラの名もなき看守』

チケット発売日 一般・メンバーズ:1月16日(金)

日時=3月13日(金) 12:50 / 15:40 / 19:00  
14日(土) 10:00 / 13:20 / 16:40 / 19:30  
15日(日) 10:00 / 13:30 / 16:50

※3/14(土)13:20上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督 = ビレ・アウグスト  
出演 = ジョセフ・ファインズ デニス・ヘイスバート ダイアン・クルーガー ほか  
(2007年 / 仏・独・ベルギー・伊・南ア合作 / 117分)

料金 = 一般:前売1,000円 / 当日1,200円 小中高生:前売800円 / 当日1,000円



## CINEMA 彩の国シネマスタジオ 埼玉会館上映会

## 『12人の怒れる男』

チケット発売日 一般・メンバーズ:1月16日(金)

日時=4月24日(金) 13:00 / 18:30  
※13:00上映回終了後15:45から16:00まで、  
18:30上映回前18:15から18:30まで埼玉弁護士会所属弁護士によるトークがあります。会場 = 埼玉会館 小ホール 監督・脚本・製作・出演 = ニキータ・ミハルコフ  
出演 = セルゲイ・マコヴェツキイ セルゲイ・ガルマッシュ ヴァレンティン・ガフト ほか  
(2007年 / ロシア / 160分)

料金 = 一般:前売1,200円 / 当日1,400円 小中高生:前売800円 / 当日1,000円

※4月上映作品からチケット料金を改定させていただきます。ただし、小中高生の料金は変更ありません。



## PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～柳家権太楼

チケット発売日 一般:1月24日(土) メンバーズ:1月23日(金)

日時=4月18日(土) 開演14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
出演 = 柳家権太楼 ほか  
料金 = 一般:3,000円 メンバーズ:2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上):2,000円

## MUSIC

## 福井 敬 テノール・リサイタル

チケット発売日

一般:1月25日(日) メンバーズ:1月24日(土) 詳細は P.18～19 にて

## MUSIC

クリスチャン・ツィメルマン  
ピアノ・リサイタル

チケット発売日

一般:2月7日(土) メンバーズ:1月24日(土)

日時=5月22日(金) 開演19:00

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
曲目 = バッハ、ベートーヴェン、ブラームスの作品

シマノフスキ:ポーランド民謡の主題による変奏曲 作品10

料金 = 一般: S 席10,000円 / A 席8,000円 / 学生 A 席3,000円

メンバーズ: S 席9,000円 / A 席7,200円



## PLAY ムサシ

チケット発売日

一般:1月31日(土)

詳細は P.6～7 にて  
※メンバーズプレオーダーは終了しました  
※メンバーズ WEB 先行販売あり。  
詳細は財団ホームページ <http://www.saf.or.jp> にて

## MUSIC 熊谷会館ファミリー・コンサート

## 宮川彬良&amp;アンサンブル・ベガ

チケット発売日

一般:2月14日(土) メンバーズ:2月7日(土)

日時=5月2日(土) 開演15:00(終演予定16:10) 会場 = 熊谷会館  
料金 = 一般: 大人2,500円 / 子ども(3歳～中学生)1,000円  
※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。

## DANCE

## コンドルズ 埼玉スペシャル公演2009

チケット発売日

一般:2月14日(土) メンバーズ:2月7日(土) 詳細は P.10～15 にて

【チケットの購入方法について】財団チケットセンター

048-858-5511 10:00～19:00  
(休館日を除く)

## MUSIC

## 埼玉会館ランチタイム・コンサート

チケット発売日(第7回・第8回・第9回 共通)

一般:2月14日(土) メンバーズ:2月7日(土)

日時

第7回 N響メンバーによる金管五重奏 5月28日(木)

第8回 東京交響楽団メンバーによる木管五重奏 7月2日(木)

第9回 古部賢一(新日本フィル首席) オーボエ・リサイタル 10月27日(火)

各回開演12:10(終演予定13:00)

会場 = 埼玉会館 大ホール 料金 = 各回 全席指定1,000円



## MUSIC

## NHK 交響楽団

チケット発売日

一般:2月14日(土) メンバーズ:2月7日(土)

日時=6月21日(日) 開演15:00

(指揮者&amp;コンサートマスターによるプレコンサート・トーク 14:25～14:40)

会場 = 埼玉会館 大ホール 出演 = 準・メルクル(指揮) 佐藤俊介(ヴァイオリン)

曲目 = メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 水短調 作品64、ラヴェル:ボレロ ほか

料金 = 一般: S 席7,000円 / A 席5,500円 / B 席4,000円 / 学生 B 席2,000円

メンバーズ: S 席6,300円 / A 席4,950円 / B 席3,600円



## MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ

チケット発売日 4回セット券 一般:2月14日(土) メンバーズ:2月7日(土)

1回券 Vol.9 アレクサンダー・ガヴリリュク

一般:3月14日(土) メンバーズ:3月7日(土) ※Vol.10以降は順次発売いたします。

日時=Vol.9 アレクサンダー・ガヴリリュク 6月28日(日) 開演15:00

Vol.10 三浦友理枝 9月5日(土) 開演14:00

Vol.11 福岡洗太郎 11月28日(土) 開演14:00

Vol.12 フランチェスコ・トリスターノ・ジュリメ 2010年2月20日(土) 開演14:00

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

料金 = 4回セット券 S 席12,000円 / A 席8,500円

1回券 一般: S 席3,500円 / A 席2,500円 / 学生 A 席1,000円 メンバーズ: S 席3,150円

## CINEMA 彩の国シネマスタジオ

## 『石内尋常高等小学校 花は散れども』

チケット発売日 一般・メンバーズ:2月13日(金)

日時=4月10日(金) 13:00 / 15:50 / 19:00

11日(土) 10:00 / 13:20 / 16:10 / 19:10

12日(日) 10:00 / 13:20 / 16:50

※4/12(日)13:20上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 原作・脚本・監督 = 新藤兼人

出演 = 柄本明 豊川悦司 六平直政 川上麻衣子 大竹しのぶ ほか (2008年 / 日本 / 118分)

料金 = 一般:前売1,200円 / 当日1,400円 小中高生:前売800円 / 当日1,000円

※4月上映作品からチケット料金を改定させていただきます。ただし、小中高生の料金は変更ありません。



## DANCE ヤン・ファール『寛容のオルギア』

チケット発売日

一般:3月7日(土) メンバーズ:2月28日(土) 詳細は P.10～15 にて

## PLAY 源氏語り五十四帖

チケット発売日 一般:3月15日(日) メンバーズ:3月7日(土)

日時=第49回「東屋」5月17日(日)、第50回「浮舟1」7月12日(日)、

第51回「浮舟2」9月27日(日) 各回開演14:00

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

出演 = 幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:フェリス学院大学教授)

料金 = 全席指定 1回券2,500円 第49～51回連続券6,600円



## MUSIC 埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド!

チケット発売日 一般:3月21日(土) メンバーズ:3月14日(土)

日時=8月2日(日) 開演14:00 会場 = 埼玉会館 大ホール

出演 = 飯森範親(指揮) 朝岡 聡(ナビゲーター) 東京交響楽団(管弦楽)

料金 = 一般: 大人 S 席4,000円 A 席3,500円 / 子ども(3歳～中学生) S 席1,500円 A 席1,000円

メンバーズ: 大人 S 席3,600円 A 席3,150円

※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。

【窓口営業時間】

●彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00(休館日を除く)

●埼玉会館 10:00～19:00(休館日を除く) ●熊谷会館 10:00～17:00(休館日を除く)

インターネット販売及び他購入については、財団ホームページ <http://www.saf.or.jp> まで



## 発売中公演情報 (2009.1.15 ～)

## PLAY

## 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾 『冬物語』

日時＝1月15日(木)～2月1日(日) 全18公演  
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
出演＝唐沢寿明 田中裕子 横田栄司 長谷川博己 藤田弓子 六平直政 嵯川哲朗 ほか  
料金＝一般：S席9,000円／A席7,000円／B席5,000円／学生席2,000円  
メンバーズ：S席8,100円／A席6,300円／B席4,500円

## 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～立川生志の会

日時＝1月24日(土) 開演16:00  
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
出演＝立川生志 柳家花緑(ゲスト) 立川談奈 立川こはる  
料金＝一般：3,000円 メンバーズ：2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上)：2,000円

## フェスティバル／トーキョー

## さいたまゴールド・シアター『95kgと97kgのあいだ』

詳細は P.4 ～ 5 にて

源氏語り五十四帖 第48回<sup>やどりぎ</sup>「宿木2」

日時＝3月15日(日) 開演14:00  
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
出演＝幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説：フェリス学院大学教授)  
料金＝全席指定：2,500円

## CINEMA

## 彩の国シネマスタジオ『西の魔女が死んだ』

日時＝2月13日(金) 13:00／15:50／19:10  
14日(土) 10:00／12:50／16:00／19:30  
15日(日) 10:00／13:10／16:10  
※2/14(土)12:50上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。手話通訳を予定しています。

会場＝彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
監督＝長崎俊一 原作＝梨木香歩  
出演＝サチ・パーカー 高橋真悠 りょう 大森南朋 高橋克実 木村祐一 ほか  
(2008年／日本／115分)  
料金＝一般：前売1,000円／当日1,200円 小中高生：前売800円／当日1,000円  
※日本語字幕とともに音声ガイドをプリントに直接焼き付けています。お客様全員に音声ガイドが聞こえますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 彩の国シネマスタジオ 熊谷会館上映会 オペラ映画『椿姫』

日時＝2月28日(土) 11:00／14:00 会場＝熊谷会館  
作曲＝ジュゼッペ・ヴェルディ 監督＝フランコ・ゼッフィレッリ  
出演＝ヴィオレッタ／テレサ・ストラータス(ソプラノ) アルフレード／ブラシド・ドミンゴ(テノール)  
ジェルモン／コーネル・マクニール(バリトン) ほか  
指揮＝ジェイムズ・レヴァイン (1982年／イタリア／105分) イタリア語版(日本語字幕あり)  
料金＝一般：前売2,300円／当日2,500円 メンバーズ：2,000円

## SPECIAL PICK UP

## 音楽とお話で「パディントン ベア™」の物語をお贈りします。

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

ご家族で気軽にクラシックをお楽しみいただく埼玉会館ファミリー・クラシック。今回は、室内楽の登場です。前半は、一度は耳にしたことのあるモーツァルトの名曲をたっぷりとお聴かせしてから、「パディントン ベア」の音楽物語をお贈りします。後半には、ライト・クラシックとして親しまれているアンダーソンの作品の数々。楽器紹介あり、“歌のお姉さん”稲村なおこさんと一緒に歌うコーナーありの盛り沢山のコンサート。どうぞお楽しみに！

## ●●●●● MUSIC ●●●●●

## 埼玉会館ファミリー・クラシック

## パディントン ベア™といっしょにコンサートに行こう！

木村美音子(指揮) 稲村なおこ(お話&歌)  
東京交響楽団の仲間たち

【日時】3月15日(日) 開演 14:00

【会場】埼玉会館 大ホール

【曲目】モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク KV525  
チャペル：くまのパディントンのはじめてのコンサート  
くみんまで歌いましょう！> 久石 譲：さんぽ ほか

【チケット(税込)】好評発売中  
一般：大人3,000円 こども(3歳～中学生)1,500円  
メンバーズ：大人2,700円 ※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。



PADDINGTON BEAR™  
©paddington and company Ltd 2008  
Licensed by ©copyrights Group

## review 公演レビュー

## 唐澤まゆ子&amp;荘村清志 デュオ・リサイタル

## 歌声とギターの音色が溶け合う“温もり”

文＝片桐卓也 [音楽ライター]

ソプラノの透명한響きとギターの柔らかな和音が、ホールのできの中に溶けて行く。そんな得難い瞬間を何度も経験させてくれた「唐澤まゆ子&荘村清志 デュオ・リサイタル」だった。もともと伴奏楽器のギターと声楽の相性は良く、バロック時代からデュオの伝統がある。ふたりのコンサートは、そんな時代を彷彿とさせるマリー・アントワネットの曲《それは私の恋人》から始まり、ベッリーニ、パッハ＝グノー、アルベニス、ファリャと前半は続く。フランス語、イタリア語、ラテン語、スペイン語と言葉を替えながらも、唐澤の言葉に対する繊細な心遣いが音楽の内容をよく伝えてくれる。

後半最初の日本歌曲、中でも貴志康一の《かごかき》では、ビートルズが来日した時に着ていたという航空会社のハッピを着て歌うというサービスも。荘村は前半にアルベニスの《グラナダ》、後半に《アルハンブラの想い出》などのソロ曲を交えて、ふたりの旅は続く。ドリーブの《カディスの娘》の鮮やかな幕切れまで、ふたりの音楽的な呼吸がぴったりで、声に合わせて微妙に変化して行くギターの音色がとても美しい。

途中のソロの部分では、荘村が秋に体験したスペインでの録音(ビルバオ交響楽団との《アランフェス協奏曲》)の6時間のシェスタ(昼休み) 体験談で客席を沸かせ、唐澤も曲の途中で、いくつかのコメントを挟みながら、リラックスした雰囲気を作っていたのが印象的だった。アンコールの《蘇州夜曲》《枯葉》などを含めて、ふたりの音楽性、そして作品を聴き手に届ける努力などが、伝わってきた温かい演奏会だった。またこの組み合わせに出会うことを期待したい。



唐澤まゆ子(ソプラノ) & 荘村清志(ギター) デュオ・リサイタル  
(2008年12月7日 音楽ホール)

## information インフォメーション

## オルガンにハマる！

～みんなのオルガン講座 2009 ～



© 加藤英弘

2006年度から開催している「みんなのオルガン講座」、2008年度の発表会が11月3日、彩の国さいたま芸術劇場1階の情報プラザで開催され、19人の受講生が大塚直哉氏による3回のレッスンの成果を披露しました。「もっとオルガンを続けたい!」という受講生や、「私も弾いてみたい!」というお客様からの熱いリクエストにお答えして、2009年度も「みんなのオルガン講座」を開催します。ふるってご応募ください。

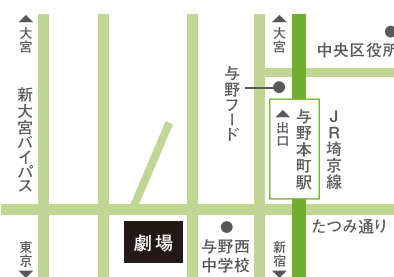
## ■開催スケジュール

レクチャー＝4月29日(水・祝)  
レッスン＝7月11日(土)、9月27日(日)、  
12月19日(土)、2010年2月6日(土)  
発表会＝2010年2月7日(日)  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ  
※別途、自主練習日を設定いたします。  
受講料：  
ソロ・クラス(受講1年目)＝9,000円(テキスト代別)  
アンサンブル・クラス(受講2年目)＝10,000円

※応募要項は、(財)埼玉県芸術文化振興財団 事業部音楽担当 048-858-5506までお申し付けいただくか、財団ホームページ <http://www.saf.or.jp> からダウンロードください。

## ACCESS MAP アクセスマップ

## 彩の国さいたま芸術劇場



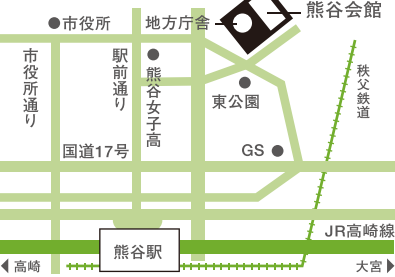
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1  
電話：048-858-5500 (代) ファックス：048-858-5515  
電車でのアクセス JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分  
バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き  
「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

## 埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4  
電話：048-829-2471 (代) ファックス：048-829-2477  
電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

## 熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2  
電話：048-523-2535 ファックス：048-523-2536  
電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

## 「簡単」・「早い」 インターネットチケット購入

- Point 1 時間を気にせずいつでもアクセス(24時間受付)
- Point 2 メルマガで公演情報をいち早くキャッチ
- Point 3 気になる公演の空席状況をチェック
- Point 4 WEB 先行販売で良席確保(一部公演のみ)
- Point 5 キャッシュレスでらくらく購入

- Point 6 購入チケットは自宅へお届け
- Point 7 ホームページから簡単 WEB 登録(無料)



※メンバーズの方も WEB 会員登録が必要です。

<http://www.saf.or.jp> (PCのみ)



## ■サポーター会員

(財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)エフテック／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／金井大道具(株)埼玉りそな銀行／(株)パシフィックアートセンター／アサヒ印刷(株)／FM NACK5／東京電力(株)埼玉支店／東京ガス(株)／JA/JA埼玉県信連／カヤバシステム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)オメダム／(株)十万石ふくさや／森舞舞台機構(株)／日本データコム(株)／(株)ビルメン／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)／ソシエテジェネラルアセットマネジメント(株)／ゲレツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルバインズホテル(株)アルビーノ／国際照明(株)／(株)松永建設／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／あいおい損害保険(株)埼玉営業部／(株)ショーマン埼玉スバル自動車(株)／(株)木下フレンド／(株)東玉／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター(株)オリエン／不動開発(株)／ビストロ やま／ホッカイエムアイシー(株)／埼玉縣信用金庫／(有)武蔵興産／(株)栗原運輸／(株)エコ計画／彩の国SPグループ(有)／プラネッツ／トキタ種苗(株)／関東自動車(株)／日本ビストンリング(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／亀井産業(株)／(株)グリーン企画社／(有)中島運輸(株)国際ビジネス研究所／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／太平洋セメント(株)／(株)ビー・アンド・イー・ディレクションズ／朝日新聞 伸光堂さいたま販売(株)／丸美屋食品工業(株)／マツヤハウジング(株)／日立キャピタル(株)／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉建興(株)／(株)日産サテリオ埼玉／埼玉トヨペット(株)／(株)あいおい保険総合サービス／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／(株)アライヘルメット／西武文理大学／(株)東和銀行医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)協同商事コエドブルワリー／(株)ウイズネット／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／三光ソフラン(株)／五光印刷(株)旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドテック(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス H21.1.15現在／一部未掲載

【問合せ先】(財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

Art Window

ムサシ

人類は闘いの歴史といわれる。

旧約聖書によれば、人類最初の死に至る闘いは

カインとアベルという兄弟の男同士の争いであった。

決闘はヨーロッパで、裁判にかわる行為として発祥した。

決闘者がラテン語源の「二つ」という意味を含む

Duelistデュエリストとよばれるように、

通常、二者間で一定の条件に従い行なわれる。

時代と共に武器は剣から拳銃へと変遷し、近世まで闘いは盛んに続いた。

日本における決闘は主に武士の間で行なわれ、武士道の思想が支柱にある。

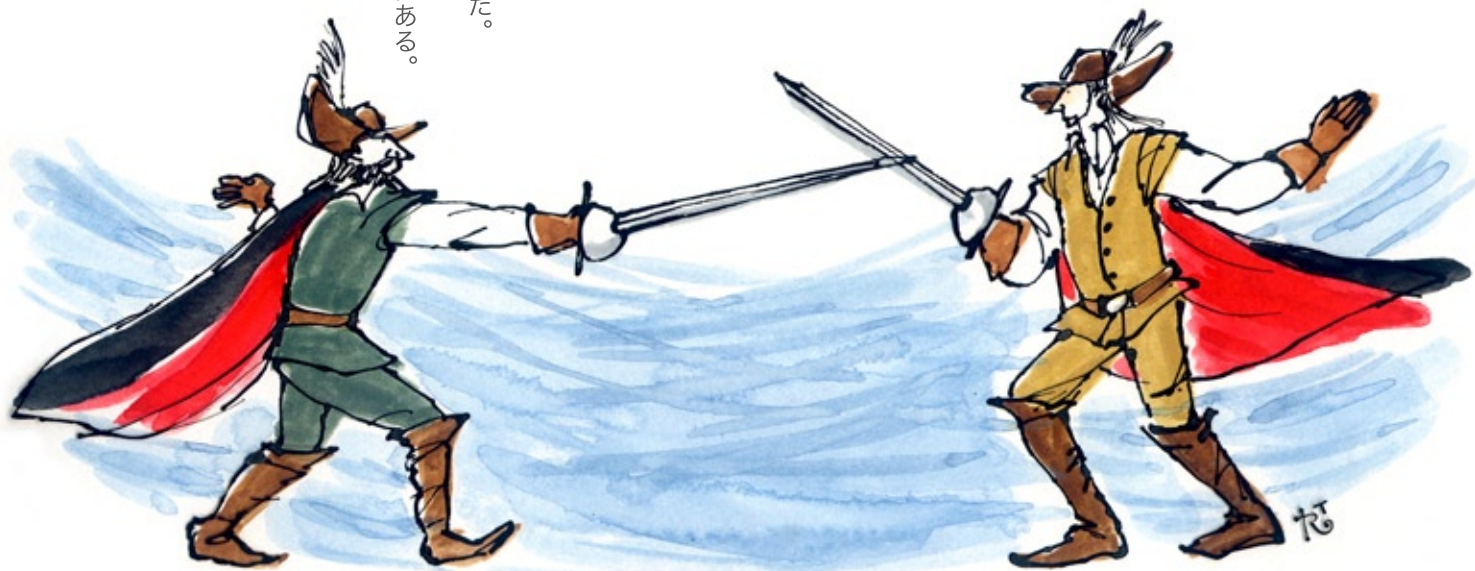
だが洋の東西を問わず、決闘はプライドを賭けた闘い、

そしてほとんどの場合、デュエリストは男である。

プライドと闘争本能。

生死を賭けて、男が究極の対峙の瞬間を迎える時、

そこにどんなドラマが繰り広げられるのだろう。



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2009.1-2

平成21年1月15日発行19号(隔月15日発行) 第19号(1月-2月) 発行人:竹内文則 発行:財団法人埼玉県芸術文化振興財団 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500